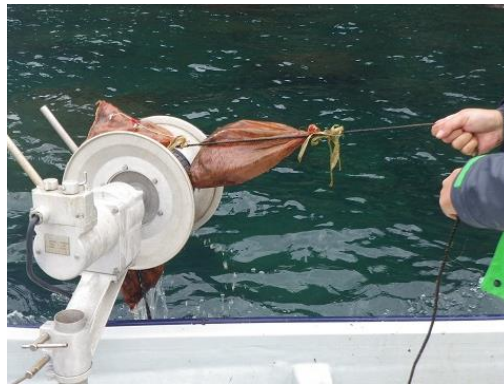


● 浜の話題

- 11月1日から9日にかけて、葉山町漁協は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受けて、地先の砂地漁場の底質環境を改善する海底耕運を7回実施しました。その海域では、12日に刺網や曳釣りやヒラメのまとまった漁があり、漁業者は「早速効果が表れたのかな？」と話していました。
- 11月5日、真鶴町漁協海女部会は、10月11日に藻場造成のために設置したカジメのスポアバッグ（成熟した海藻を詰めた袋）を回収しました。袋から回収したカジメ葉を観察したところ、子嚢斑（遊走子を放出する部分）の跡が白く抜けており、スポアバッグを設置した周囲に遊走子（孢子）が拡散されたと考えられます。藻場造成をおこなった磯根は、ここ数年カジメが全く見られなくなった場所ですが、今回の取り組みによりカジメの幼体が出芽することが期待されます。



設置したスポアバッグの回収

- 11月6日、上宮田漁協はチョウセンハマグリ資源増殖の勉強会を開催し、同漁協の漁業者6名と三浦市職員が参加しました。先進地である藤沢市漁協における資源管理の取組事例や、平塚と茅ヶ崎における分布調査の結果などについて、県水産技術センターの普及指導員が説明しました。当日は、生命の星地球博物館の専門学芸員からチョウセンハマグリの生態についての助言もあり、参加者は今後の取組内容について協議しました。



勉強会の様子

- 11月7日、藤沢市漁協は、チョウセンハマグリ稚貝分布調査（特別採捕許可）を鵜沼から辻堂地先にかけての海岸で実施しました。昨年の調査に比べて個体数は少なかったものの、放流している貝よりも小さなサイズの貝が多く見られたことから、葉山組合長は「地先の浜で順調に藤沢生まれのチョウセンハマグリが育っていることに安心した」と話していました。



藤沢での調査の様子

- 11月8日、平塚市漁協は、チョウセンハマグリ稚貝分布調査（特別採捕許可）を虹ヶ浜から千石河岸地先にかけての海岸で実施しました。今回の調査では稚貝は見つかりませんでしたが、あわせて実施した砂質調査の結果（現在分析中）をふまえて、今後のチョウセンハマグリ資源に対する取り組みを検討していきます。



平塚での調査の様子

- 11月10日、横浜市漁協柴支所は毎年恒例の「柴漁港 秋のさかなフェア 2018」を開催しました。漁港で水揚げされる魚の直売、獲れたての魚を食べられる丼屋さんやバーベキュー、魚と触れ合うタッチングプール、お魚クイズ、金沢湾・海の環境教育等の色々なコーナーがあり、多くの来場者で賑わいました。



お魚クイズの様子

- 11月13日、横須賀市大楠漁協は、横須賀市と（一財）横須賀西部水産振興事業団の支援を受けて、アワビとサザエの種苗放流を実施しました。当日は、同漁協の若手漁業者が地先漁場に潜水し、アワビ種苗 8,000 個とサザエ種苗 4,700 個を岩礁の間に放流しました。
- 11月13日、鎌倉漁協は漁業研究会役員と潜水部会員を対象に「生残率を高めるためのアワビ種苗放流のポイント」について勉強会を開催しました。当日は、放流に適した海底地形や水深、餌となる海藻の繁茂状況等について、県水産技術センターの普及指導員が説明しました。同漁協は 11 月下旬にアワビ種苗放流を予定しており、参加した漁業者は事前に放流の基礎知識を得ることができました。

- 11月15日、小田原市漁協刺網部会の研修会が、県水産技術センター相模湾試験場で開催されました。研修会では同試験場の研究員と普及指導員から「神奈川県におけるアワビ類の資源回復に向けた取り組み」と「西湘海域での磯根漁場保全対策」について説明がありました。近年、西湘地域でも磯焼けが各地で見られるようになってきていることから、磯根資源と漁場保全対策に重点を置いた内容となりました。当日は多くの刺網漁業者が参加し、意見交換の場でも多くの質問があるなど、今後の漁場保全のための有益な研修会となりました。



刺網部会研修会の様子

●お知らせ

- 12月11日（火曜日）15時30分から、県水産技術センターは同センター4階BC会議室で「トラフグ研修会」を開催します。研修会では、同センター職員から本県沿岸のトラフグ漁場について、また（国研）水産研究・教育機構職員からトラフグの生態や回遊実態などについて講演する予定です。現在トラフグ漁を行っている方はもちろん、これからトラフグ漁に取り組みたい方にもぜひ聞いていただきたい内容ですので、皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは担当普及指導員または同センター栽培推進部（電話：046-882-2314）までお問い合わせください。